９／８『新しい愛の戒め』（ ヨハネ１３：３１～３６）

長谷川望牧師

＊ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今、人の子は栄光を受け、神も人 の子によって栄光をお受けになりました。（ヨハネ１３：３１）この時、イエスは いわゆる「訣別の説教」と言われる話を弟子たちにされる。その最初に、十字架、 復活、昇天という３つの大きなイエス・キリストのみわざがもうすぐ確実に起こることを話された。

＊わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。（１３：３４） これからは、弟子たちは今までのようにイエスとともに歩むことができないので、大切な戒めを残される。「新しい戒め」のもとは「古い戒め」である。それは、あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは主である。」（レビ記１９：１　８）人に恨みを覚えた時に復讐するな、その人を愛しなさい、それも自分自身を愛するように、と教えられて来た。しかし、新しい戒めは、さらにレベルが上がる。そのポイントとなるのは、「わたしがあなたがたを愛したように」である。イエスが弟子たちを愛した「愛」とは「十字架の愛」である。神に敵対して歩んでいる私たちのために、愛するひとり子を身代わりとしてささげられた愛である。 完全な犠牲の愛、敵をも愛する愛である。十字架の上で「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのかが、わかっていないのです。」（ルカ２３：３４）と十字架につけた兵士たちの赦しを乞う姿にその愛がある。どんな相手でも赦し、受け入れる愛である。

＊そのように、私たち一人ひとりを愛してくださったように、私たちお互いに愛し合いなさいと言われている。この戒めは、イエスが十字架にかかってくださって初めて明らかになったので、新しい戒めなのである。私たちは、このような愛し方をすることはとても無理だと思うだろう。しかし、このことばは、いわゆる博愛主義としてのことばではなく、イエスが、イエスを愛して従う弟子たちに言われたことばである。人を愛することができない私たちのために十字架にかかってくださったことを覚えるとき、私たちクリスチャンは主イエスの愛に少しでも近づきたいと思う。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。（１３：３６）